

露伴全集目錄

漆山天童編

特別
イ 4
3159
A 68



14
3159
A68

漆山天童編纂

露伴全集總目



露伴全集總目

二回第一卷 小説 九三七頁
五、一〇、一五發行

一剎那 二二、五

風流佛 三三、九

奇男兒 三三、二

雲紛 三三、六

原本

ノ

現代本

明治大正

明治大正

對鬪體一名緣外緣 二三、一二

叢書

毒朱脣一名法外小説 大詩人 二三、一二

けろりめ
系

み札ん 二三、一(三三、一)

有福賀

伽羅物語 二三、四

現代日本

一口劍 二三、八

叢書後

封じ文(三三、二)

有福賀人

好因果 二三、一二

新著百種

七變化 二三、一二

現代日本

辻淨瑠璃 二四、春

ゝ

寢耳鐵砲リ、夏

原本菊版

いせなとり 二四、二

現代日本

五重塔 二五、二(三四、冬)

尾花集
菊設

血紅星

二五、一〇（二四、初夏）

有福夢

書生商人

二五、二

ノ

蘆の一ふし

二六、三

叢書

迷霧

二七、八（二二？）

ク

新學士

二八、四

ク
後

新浦島

二八、七

三回第二卷 小説

八八〇
五、一、二五

現代日本

風流微塵藏

二六、一—二八、二

さゝ舟

うすうらひ

荷葉盃

まぐの濱松

（二六、一）

ひとり寝

さんなき車

あがり録

雲の袖

自繩自縛 (三六八)

司馬温公 (二九一)

めさ草字

叢書後

叢書前
僥倖 (三九二)

原本
ひげ男 (二九一)(三九二)

写
弓矢の家 一名 新生田川 (三〇一)

現代日本
佐渡ヶ島 (三〇一)(三九二)

明治後集写
白眼達磨 (三〇二)

國民抄写
真野の萱原 (三〇七)

長語

めぐりあひ 三〇、八

原本

新羽衣物語 明治三〇、八

新小説字

貧乏 明治三〇、〇

一回 第三卷 小説 四九、一、五

叢書

夜の雲 三一、一

現代日本

風流魔 一名 戀の俘 三二、八
名古屋だより

叢書前

二日物語 三一、二—三四、一

後

枕久物語 三二、一—三三、五

現代日本

不安 新小説明治三三、五

〃

太郎坊 三三、七

叢書後

銃獵孝行 三四、一

叢書

縁の絲 三四、二

叢書

夢がたり 三四、八

小名十種

初霜 三五、八

叢書後

箱根草 三五、一

夕

乙とよ草 三六、六

現代日本

雁坂越 三六、六

明治大正
邊讀著諸
君に新聞
切抜

天うつ浪 三六、九

現代日本

土偶木偶 三八、九

明治大正

不藏庵物語 三九、二

六回 第四卷 小説 別纂 一〇二八
五、五、一〇

叢書

露團 三三、二 (三一、夏)

夕

是はく 三三、八

夕

あやいやな 三三、二

文部母字

妙七情 (三三、一)

叢書

和合樂 (三三、一)

々

醉鄉記 (二三、一)

々後

鐵三鍛 (三三、一)

々

冷于冰 (三三、二) 踏波仙合作

新著百種

真言 聖天樣 (三四、一) 秘密

叢書前

大珍話 (三四、一) (三三、九一、一〇)

筆作母字

大珍話 浮世談義 (三四、一)

叢書後

蹄鐵 (二六、三)

長語

當世文反古 (二五、一)

叢書前

川舟 (一名) 都鳥 (二七、一〇)

長語

大丈夫 (二九、八)

叢書後

夢日記

三一、六

長語

書生

三一、七

相合炬燵

三二、三

宴會

三三、二

小品十種

齡

三六、五

叢書前

珍饌會

三七、

小品十種

縁不縁

三七、五

利久箸

三七、六

つなぎ墨

三七、七

雜記帳

三七、九

油障子

三七、二

初すろこび

三八、一

小品十種

七碗歌 三八、一

をさな心 三八、一

現代日本

術競べ 三八、一

付焼刃 三八、二

玉かつら

二つ鏡 三九、二

税 三九、一

喜捨金 三九、春

山の一家 四〇、春

一條路 四〇、四

横鑑 四〇、六

鹽加減 四〇、七

水の味 四〇、八

小品十種

二音

小品十種

輕井澤

四〇、八

リ

蟹賣り

四〇、一〇

讀賣切抜

争

四四、一

原稿

權の掣

利休の妻

大正二

雜誌改造

骨董

大正一五、

龍姿吃姿

觀畫談

昭和二、一

〃

望樹記

一名ケ子

昭和二

〃

暴風裏花

昭和二

クラク

末利夫人と石田三成

昭和三、三

改造

魔法修業者

昭和三、四

(游塵)

雜誌、祖國

蘆聲

昭和三、一〇

小菽集

叢書字

國民小説字

文藝叢書

諷言

八回 第五卷 小説別纂 笑話 少年讀物

日ぐらゝ物語 (三三、四月八日一回)

九五二
五七二〇

風豔魔傳 二四二

風流悟 二七九

當世外道面 三〇六

六十日記 三二、二月三日—四月二五日

原本

幽情記 大正八、三

眞々

師々

樓船斷橋

水殿雲廊

共命鳥

一枝花

泥人

玉主

碧梧紅葉

狂濤豔魂

五

現代日本

金鵲鏡
桃花扇
幽夢

運命

大正八、四

以上小説

落真美入 二三、一

春の山

叢書後

調言

すばみ臺

三〇、九

小品十種

笑話

三八、一

以上笑話

原本菊版

寶貝の藏

二五、六

寶の山

三五、三

三藏真西遊記

二六、三

叢書前

伊能忠敬 二六三

少年雅賞

伊能忠敬翁 二六五

少年世界寫

弓太郎 二八七

叢書

休暇傳 三〇八

立志立功

鐵の物語 四二

リ

番茶會談 四四

リ

供食會社 大正元

リ

人事豫測表 大正元

リ

芥子大黒 大正元

リ

小農園 大正元

リ

米價問答 大正元

以上少年讀物

四回 第六卷 戲曲 詩
六九七
五、二、二〇

小菽集

満壽姫 二四、一三（二四、夏？）

明治大正

有福詩人 二七、一

玉かつら

其師今様八犬傳 三九、春

現代日本

名和長年 大正三、夏

龍芳地蔵

不兒罕山 昭和元

”

清系縁起

”

憤恨種子

”

怪傑誕生

以上 戲曲

原本

お上の出廬 三七、

字

藤 三〇、一

僧の戀 三〇

拂曉 大正元

邦須野 四四比

以上詩

五回 第七卷 論文 九〇一
五四、一五

努力論 四五、七

日本
切技

原本

修省論 大正三、四

悦樂 大正三、七

悦

樂 不愠
無益

悦樂
原本

一國の首都 三三、夏

長語

一〇回 第八卷 芭蕉七部集抄 九一五
五、九、一五

原本
冬の日抄 大正一三、春

春の日抄 昭和二、仲夏

曠野抄

ひさご抄 昭和四、晚秋

猿蓑抄

炭俵抄 昭和四、仲冬

續猿蓑抄

七回 第九卷 文學論考 九八〇
五、六、一五

長語 二五、九

文章 二五、一二

文章研究録 四〇、比
洗心録 五、四、十一、四一、比

調言 三〇、一
尺牘説 四三
讀偶書 八、九

青すだん
（中後）
讃言
思想
（天正三、三
四）

聖賢の語を釋するにつきて 三四、一

讀史後語 三一、六

閑窓偶筆 大正一四、二一、四
（海塵）

連歌

繩あみ

柏梁臺

東方朔とマンモツス

蘇武と野鼠

款冬

西遊記の作者

祀は何ぞや

書齋閑話

潮音

文藝道

蝸牛（忍）

悦樂

不明一枚摺

中央公論

不明雜俎

潮音

讃言

叢書

新修卷

蝸牛（忍）

早稲田文學

詩歌の妙

短詩 三八

俳句 四一

請ふ看よ

俳諧に於ける小説味戯曲味 昭和二、九

芭蕉が附句の妙味

一字血脈 大正一五、一

讀蕉翁語録 三三、一

獅子庵

謡曲 四〇

舞曲 四〇

我國古文學に就て 昭和二、一二

九

帝國文學
譚言

江戸文學の一部面 大正七、九
海と日本文學と 三三、六

以上文學雜誌

思想

列子を讀む 昭和二、四

墨子 昭和三、七 **卷塵**

譚言

心融師の歸元鏡 二九、八

洗心廣錄

恩重經 大正四

譚言

鄭廷玉の忍字記 二七、八

原稿

支那小説

斯文

古支那文學に於ける小説の地位 大正一五夏

洗心錄

支那の文學中の衣服の色 四三、

蝸牛庵夜評

遊仙窟 四〇、夏

遊塵

譚言

叢書前

繁花主人の畫中人 三二、一〇

元時代の雜劇 二八

喬孟符

揚州夢

金錢記

兩世姻緣

楊顯之

瀟湘雨

酷寒亭

關漢卿

望江亭

竇娥冤

救風塵

拜月亭の話 大正七、八

邯鄲と竹葉舟 大正七、一〇

雙珠記の話 大正七、一〇

漁父詞の作者 大正一三

温飛卿 四〇、年比

韓退之の聯句 大正一四、一

唐末の詩人杜荀鶴 大正一五、一

九

帝國文學

雜誌返卸

不明雜誌

原稿

思想

改造

國譯漢文

隨筆春秋

東亞堂

原稿

隨筆春秋

新少切抜

東亞堂

字

字

字

蘇子瞻・米元章 大正一五、七

水滸傳 大正一二、春

水滸餘話

題水滸傳 四四、夏

再題水滸傳 〃八

三たび水滸傳に題す 〃二

四たび水滸傳に題す 四五、四

金聖歎 昭和二、五

水滸傳の批評家 大正七、七

閃婆 昭和三、二

漢楚軍談 大正元、六

通俗三國志 四四、二—八

以上支那文學

上古事記表

古事記讀本 四四、九

西行歌集

新刊山家集序 三六

異本山家集序 三九

枕草紙・つれづれ草 四五、一

徒然草 大正二、一〇

保元物語・平治物語 四四、秋

平家物語 四四、夏

太平記 四四、三—七

海道記 四四、九

字

原本

蠅筆

東亞堂

原本

原稿

東亞堂

少

名著文庫

回國雜記 四四、九

原稿 狂言 三六、五

狂歌 四一、三

芭蕉翁繪詞傳 三六

芭蕉の文 四四、一

西鶴佳作集 四四、五

巢林子佳作集 四四、秋

江島其磧佳作集 四四、四

上田秋成際作集 四四、夏

名著文庫 草 四〇、一〇

八犬傳 四三、八

椿説弓張月

原稿 舜天王傳 四四、三

開卷驚奇俠客傳 四四、四一五

名著文庫 夢想兵衛胡蝶物語 四〇、一

雲の妙間雨夜月・四、郷談 四四、夏

昔語質屋庫 四四、三

一休諸國物語 四四、四

大岡政談 四四、秋一四五、一

邯鄲諸國物語 四四、五

田舎源氏 四五、五一 大正二、四

伊呂波文庫 四四、夏一秋

浮世風呂 四四、四

浮世床 四四、秋九

原稿

東亞中

膝栗毛 四四、春一

八笑人 四四、七

七偏人 四五、六

笑話家 四二、一

中島棕隱隨筆 四一

一葉女史日記 四五、三

樋口一葉

名勝誌 二六

思軒全集序

琴の音序

詩集すひかつら序

歳時記 四一、八

原稿

名譽文庫

悦樂

洗心齋録

一葉全集

洗心齋録

甥生居録

〃

〃

洗心齋録

俚諺につきて

朝思暮想序

漂流奇談全集を讀みて雜感を記す

漂流の談 四四

游漁の説

辭世詩歌 大正四、七

演劇志 四四

洒落本通鑑 大正三

註釋二日物語の著者に答ふる文 三九、六

小説尾花集序 二五

枕頭山水序 二六

露伴叢書初版序 三五、五

甥生居録

〃

調言

洗心齋録

甥生居録

誹水中

原稿

洗心齋録

悦樂

原稿

〃

〃

九

叢書後

易心後語

八

知々夫記行

八

突貫記行

二〇、八

うつしゑ日記

一〇

遊行雜記

三〇、一〇

醉興記

二二、二二

改造

芳野山と大島沖

四四、一

洗心録

劍崎沖の風

大正三、四

東日抄切抜

華嚴瀧

昭和二、八月一日〜八日

洗心録

葛城山の雨

四四、二

以上記行

以下人物評論

一〇

九回 第十一卷 隨筆

一〇七。
一〇八。
一〇九。
一一〇。
一一一。
一一二。

折草 一名 雷護精舍雜筆

三五

愉快 土屋安親 冶工と佛師 李伯時
 心赤髮愈白 當成佛已成佛 おたつ 同巧異曲
 偶然鳥聲を聞く 芭蕉西鶴 不讀書と讀書と
 善人多く孩兒 利休の語 人を議するの愚
 鶴の一聲 天地悠々 醒飢病貧 病中讀書
 情と癡と 修慈分 酒 天意 風車 四種慾
 理に達するの人 損益 人情 篠崎東海の言
 蓼太が五月雨の句 白雨 夜半の鐘 みつ巴
 戦時の詩人 将棋 おが失敗 (三六) 鬼語 (三九、三)

潮待ち草

雪中庵蓼太 神功皇后 平賀源内 林和靖
 陳眉公の奇言 甲州流軍學 徂徠 氣賀
 劇評を求めらるゝこと 辭するの書 散亂心

于瀉の舟 山の色 嘉相 氷のきらめき
 玉手匣 亀板の文字 大志 巢林子
 八原 人間五十年 湯帷子 黄素妙論
 煉金術 幽谷 酸性・亞爾加里性 生死
 香 色盲 此の身 極樂世界 煙草
 酒子 投胎 小禽の智 蜻蛉取り
 履と路と 好み 劇 飢 繫縛

調言

花のいろく

梅	紅梅	牡丹	巖桂	柘榴	海棠	危子	瑞香
忘憂	雪團	水仙	菊	芙蓉	厚朴	玫瑰	
棣棠	米囊花	側金盞花	杏	山櫻桃	桃		
木瓜	椴栲	胡蝶花	躑躅花	李花	玉蘭花		
梨花	薔薇	紫藤	桐花	蕨蕨	石竹		
豆花	紫薇	紅花	鐵線蓮	芍藥	鳳仙花		
斷腸花	白及	牽牛花	木芙蓉				

鬚鬚剃リ 墨 鋸 三莊大夫 雜草
 田の畔 撰擇 孟浩然 魚 鯉 鯽 鯉 鱸
 藝術と勉強 ちけくくべ 文藝の評
 諺 支那の諺 元の時の諺 戦 戦と詩歌

悦樂

洗心録

リ

字

悦樂

洗心録

調言

隨筆

調言

蝸牛庵夜譚

櫻 椿 柳 梅 菊 蘭 龍 世に忘るる草木 山のもの 雲のいろく 雲のわけ

梅と菊と菅公と
 蘭 龍膽花
 世に忘るる草木
 山のもの
 雲のいろく
 雲のわけ

調言

洗心録

歌にすまはくく雪
雪前雪後
風の色

風の音

山水の記

旅の心得

水の東京

日本橋

古の浅草

春の墨堤

夜の隅田川

中川

〃

洗心廣録

叢書後

蝸牛尾録

洗心廣録

長語

〃

蝸牛尾録

洗心録

洗心廣録

國粹

洗心録

新聞切抜

洗心廣録

〃

〃

〃

〃

新脩春

悦楽

洗心廣録

渡舟

夕やけの手ぶり

春の土

河水清

鱸

牛の讚

虎の讚

又

兔

太都の辭

馬

人の言

二

謹言

女の上

女妻 妾 寡婦 再婚 下司女 美女 醜婦

美女と醜婦 女の衣 髪

婦女

當世七輩婦 愚妬淫驕良賢凡

洗心録

江戸の遊女

花柳の史

好色の歌

女と水と

色と空と

求美慾 昭和三二

眼の翫

長語

文藝春秋

洗心録

洗心録

調言

洗心録

物の初

年の開

新

寶船

江戸紫

火桶 昭和三四

辛

藝

藝術の初中終

文藝

文

筆と病

洗心録

悦樂

悦樂

洗心録

悦樂

文藝春秋

長語

悦樂

悦樂

悦樂

長語

〃

調言

改造

文藝界

改造

天籟春秋

猿小言

犬談議

地口行燈

園外文學漫談

昭和三一〇一二

書籍の命名の變

著者署名の奇

昭和三五

文學三題噺

遊塵

枕の草紙と李義山と酒令

勤進帳と東坡居士と新宮

聊齋志異とシカゴエキザミナーと魔法

復讐譚

怪談

悦樂

洗心録

中央公論

悦樂

洗心原孫

調言

洗心原孫

〃

調言

蝸牛庵夜譚

奇怪の譚

怪談 昭和三九

一口噺

滑稽談

露國の滑稽作者

閑窗三記

詩書拾

秋夜四録

閑話

追蠅拂

慶長版七書

里韃事略

詠歌本紀

平山行藏の著述

鈴林危言

浮世風呂以前の浴室に関する書

兼好法師

瑣言

闇のあかり 驚ぐべき書 須彌山説に關する書
 肝膽鏡 紹巴と三甫と 乾山 風來山人
 二宮尊徳 續文獻通考 荀子・抱朴子
 西鶴の花押 西鶴の書體 西鶴の前句附選評
 再び鶴翁の花押と就て 珍癖奇以弄法
 三つび鶴翁の花押と就て 櫻陰比事
 再び櫻陰比事とつきて 西遊記の著者
 京傳の廣告 北齋の手簡 なかき句
 湯錢 渡一錢 灸 年寄曾我 めくり
 三馬と京傳と 村田屋のおくま 穴のいなり
 一九ののんき 前生 青本の末路 似字盡

調言

話苑

眞顔 俳諧節用抄 京傳閉口 娼夫張酷貪
 馬琴と黄金の釜と 馬琴の述懐 京傳の紋
 京傳自ら嘲る 古作者の飄逸 一九齋
 奥州紙と畫と文と 通笑 通笑の姓名
 一九ののんき 丈阿 晉子と動物
 関口柔心齋 孔子と芭蕉と 孔明日本を評す
 三味線 釋迦佛時代の印度 元寇 ころつき
 櫛 ミヨシ 大塩平八 水滸傳 孫悟空
 かくやひめと若菜の母と 傳書鳩 柳宗元
 運命 譬喩 暴風雨に共へたる名 辭書
 一 二 一 二 宮岩山と須彌山

夏夜問答

ヒマラヤ山 二人比丘尼の著者 鼻中庵
 古池の句 芭蕉の風采 芭蕉と道悦と
 目連尊者と佐藤一齋と 生ざより 禪宗の史
 因明 智旭 吳石渠と湯若士と 劇の論
 馬致遠 彈詞 玄宗皇帝 文學上人
 石田三成 平士語 讀書 行慈 河豚の骨
 難陀 おーまり 三の堂 能谷直實
 琵琶島 芭蕉と素堂と 陶淵明
 まるるあすー 兎童の遊び
 口ありて手なし 一夜三冠 詩人の憂ひ
 折衷と混和と 製作の方法 又

譚藪

司馬温公の冊稿 著作者の扱下 獄中の詠草
 無名の評者 なぞ 寝長庭篁村翁の文章の出處
 五月磁多綱の中著 神武天皇と後醍醐天皇と
 中院入道 若菜姫自殺す 遅塚久則・久徳
 妖怪博士と戯作者 探觚者の一難
 古革 笠籠
 塚原ト傳 木下長嘯 里村紹巴 杉永久秀
 顧炎武 袁了凡 時氏と了俊
 快川和尚と杜荀鶴 料理物語と草木子
 今昔物語と剣南詩藁 張良と蔡邕
 古書新法 帶妻蓄妾 若き言と老いとの評

洗心廣録

〃 調言
〃 思想
悦樂
洗心録
〃 悦樂
〃 雜誌石
洗心録
〃 日本及び

甘味の過現來
家屋 目録畧
家の中
一籠の中
庭園
火と家と
炭と灰と
高祖の降誕
晉の僧法顯南アフリカニ至るの日本に來るの
忽必烈の妻
活羅が妻
蝸廬雜談

洗心録
〃 洗心録
〃 調言
〃 調言
〃 洗心録
〃 洗心録
〃 調言
〃 調言

山尊の墓碑
芳野山の仙女
西八條の大臣
日蓮上人
井原西鶴
柳亭主人の句
野史亭先生の語
朗月亭羅文
曲亭馬琴
鳥居清滿
伊能忠敬
幕末の政治家

洗心録
改造
悦樂

井伊掃部 春嶽 久世大和 松平肥後
安後對馬 堀田備中 堀織部正
前部下總 大久保越中 岩瀬胆後
川路左三門尉 江川太郎左尉 松平伯耆
二藤 大田備後 安部式部
鈴木松年
寺崎廣業
樋口一葉
乃木將軍
乃木夫人

原本
普通文章論

四二一〇

一二回 第十二卷

雜纂

叢書后

文明の庫
陶器の卷
紙の卷
銃器の卷
假名の卷

原稿(翻)

神仙道の一人 論仙

游塵

原稿(本文)

雑誌

少林寺拳法 大正九、四

仙人呂洞賓 大正十一、一

扶鸞寫之術 大正十二、四

活死人王害風

○論叢 趣味 雜貨系

批評 明治三八

文人の自ら保つべき態度 二九、九

文人の他に對する態度 三〇、五

東國の某に與めるの書 二八、一

西國の某に答ふるの書 二八、二

某に與へて新體詩の應に起るべく且須らく起すべきを説く書の
作詞者と作曲者との地位の對等なるべきを訴ふるの文 二二、五

著作家協會 三〇、六

著作家と出版業者と 三〇、六

新小説發行に際して世に告ぐるの文 二九、七

新小説編輯者として江湖諸君に新作家に告ぐるの辭 二九、二

○ おももり 昭和四、三

田原多羅尾等の地名に就て

道路 大正九、一

色 三三、二

長語

○ 戲 二九、一

陸 小山の大將

長語

蝸牛庵夜譚
洗心録附録

長語

ッ
ッ

悦楽

昭々堂抄録

單行本

(同史雜考)

紙鳶の賦 三二一

將來の遊技の一大科 四〇、夏

日本の遊戯上の飛空の器 (トクトル・ミルレル瓦ノ器に) 大正二

釣車考 四三

鼠頭魚釣り 三二八

かいつ釣の記 三三八

雨の釣 三四七

魚 大正元

ウツキヤリ拾ひ 三九、初夏

圍碁將棋

圍碁雜考

將棋雜考 二七

謝言

單行本

將棋雜話 二八
當人名辭書 三三、六

水上語彙 二七、一

總索引 昭和五、壹、五

露伴全集補遺目録

写

足下らー 狂言結語一冊 明治廿五年三月三十日出版

竹下村 得知 藤田 只如 右筆 米仙 永流

生礼 文藝春秋 昭和三年三月十日

写

おふみ様を吊る 廿二年十一月十日

おふみ様とは大祐人の女主人也

校正の研究を讀み

簡素治新 新書切抜

紀文大書 文藝春秋 大正十五年一月

字
近作一編 新書文林 昭和三年五月

齋後線而吊文

新山從 以迄廿七年五月一日

字

草鞋記程

以迄廿九年一月

以迄三十五年十二月一日 太華 默庵 南翠
得知 恩新 米仙字

字

さ、舟うすくは子かゆて微塵の形もつて

字

即興

陵南集中 以迄四十年十二月

震災者に贈る言葉

大正十三年九月

専門家崇拜 上 大正五年十月 同人

十千 大正七年七月 同人

大正大震災大火灾(大正十一年九月)

大氷海 世界文庫第七編 明治三十六年九月

旅の苦樂 行樂

手紙の繪 作曲

狸おどし 大正六年五月 同人

写

美少年

少年園

明治三十二年五月

(三三三)

羊に因りて去劇

帝玉文学大正八年二月

風流微塵藏引

廿六年一月三

写

瓶花

描写の練習に就て

文章世界 明治四十年七月

写

秒針

曉石集

朗らかなる氣合 新修卷

写 本箱退治 文談集 廿五年九月

原本写取 風流佛縁起

風流禪天魔

写 ちがひりあはせ

水の助自傳 実業社

写 ちがひりが
ま後の後
みやくどり 國府文庫 廿六年二月
其一一 其三

原稿 明末の英雄顧炎武 原稿 大正十三年二月

写 無畫 國府文庫 昭和廿五年十月
其一一 其二 未定

字

明暗ふたおもて 國史文庫 明治廿九年一月

迷信の劇 帝皇文學大正廿一年

餘力ある人に 朝日新聞社 欠損

鷓鴣待庵物語

文藝俱書齋
世八年一月

和莊兵衛

和歌

狂歌

俳句

連句

○芋 糸

有田中野。○能潜字義。○支那文學。○日本文學の交街
 田中の古き物語の二書。○遊副川の訓。○乾かして
 あり緒。○銀公。○芋を焼く。○愛。○自然と人為
 何れか。○飲料水。○海苔。○菊。○食物としての
 光悦作の茶碗。○西郷隆盛の笛。○山陽遺愛の瓢
 一。○芋白の大島。○徳高島。○郡司成忠傳政
 大倉家。○初對面の日記。○和歌。○濃を狂歌集序
 ○明治文壇雜話。○郷食庭管。○須美南軍
 ○岩波氏のつた。○文化勳章のうと。○運命自叙
 ○芭蕉全集序。○芭蕉傳序。○一茶句集序
 ○譯注和漢朗吟選集序。○香書序

○都子新を序。○久々。○平綴物語序
 ○新漢和辭典序。○好き一代男記解序
 ○古澤陽稿心不集序

○骨董

骨董 ○蘇子勝 米元章 ○金聖歎
 水滸餘話 一文書 病蘭索 赤髮鬼
 明波女 ○末利夫と石田三成 ○楊貴妃と香
 雲南 ○骨の傍法顯南よりかに書る? 日記よ書る?
 支那文觀序 ○砂糖

○遊歴

唐法修行者 ○神仙道の一先人
 ○仙書冬回契 ○著書署名の奇

文學三題新の閑窓偶筆
古支那文學に於ける小説の地位

六四一

二二五八

